

●ISU の発表 (2003.10.21)

#### 2003-04 シーズンのジャッジ評価

ISU は、ISU 規定に従ってジャッジが高い水準で任務を遂行し、十分に責任を果たすことを目指している。

そのためジャッジの評価について、手続きとガイドラインに重要な改正を加えた。新ジャッジングシステムの優れている点は、評価がジャッジ評価委員会と技術委員会という 2 つの集団によって、ビデオを証拠に使用して行われることである。

ISU は、2003-04 シーズンのジャッジ評価の変更に関して通知 1238 を発行している。2004ISU 選手権大会、ジュニアグランプリファイナルで使用される暫定的ジャッジングシステムと、既に行われた 2003 ネーベルホルントロフィ、これから行われるグランプリ大会・ファイナル、2004 ノイハテルトロフィ(シンクロナイズドスケATING)で使用される新ジャッジングシステムとは、手順が別である。

要点:

#### 暫定的ジャッジングシステム(秘密無作為抽出 6 点満点方式)

- 競技会後レフェリーとアシスタントレフェリーが議長を務めるイベントレビューミーティングで、ジャッジは競技者の順位の種類について議論する
- ジャッジは自分のつけた順位が同意された範囲から外れていた場合、説明書を送る
- 選ばれた技術委員が異常な点数を調査する
- 技術委員は、説明書を検討した後、異常が重大な誤りかどうか判定する
- 重大な誤りや繰り返された誤りの証拠がなければ、ジャッジは匿名のままにされる
- そうした証拠が見つければ、ジャッジは現在の ISU 規定の評価手続きの通り始末される

#### 新ジャッジングシステム(要素評価点加算方式)

- 競技が終わると、各ジャッジが各選手・組・チームに対して評価した演技の質と構成点を順不同で並べたリストの印刷物が発行され、これによりジャッジは自分の採点だけは判別できる
- 競技後ジャッジは、テクニカルコントローラーとイベントレフェリーが議長を務める円卓会議に参加し、全体的なスケートの質や採点の範囲について考える
- ISU 理事会がジャッジ評価委員会(JAC)のメンバーをレフェリーのリストから任命する
- グランプリファイナルの後 JAC は、同意された数学的なきまりに基づき、各ジャッジのデータに異常がないか検査する
- 重大な場合や複雑な場合、JAC は演技のビデオを見返すことができる
- ビデオ分析の後 JAC は、異常が重大な誤りを表しているか判定する
- 重大な誤りや繰り返された誤りの証拠がなければ、ジャッジは匿名のままにされる
- 異常な採点を疑われたジャッジは、ビデオを証拠として使うなどして弁明する権利がある
- そうした証拠が見つかり、関係する技術委員会に報告されれば、ジャッジは現在の ISU 規定の評価手続きの通り始末される

## 新ジャッジングシステムにおける評価の伝統的なシステムに対する利点

- ジャッジの責任が十分に保証される
- ビデオ検査を使うおかげで評価がより客観的になる
- ジャッジもビデオを証拠に使うことで自己弁護がしやすくなる
- 採点を匿名にすることで、ジャッジを外部圧力の危険から守る
- 詳細な採点が発行される